

事業コード	H22-建-新-06		区 分	国庫補助	県単独
事業名	国道道路改築費		部局課室名	建設交通部 道路課	
事業種別	一次改築(バイパス)		班 名	調整・企画管理班 (tel) 018-860-2485	
路線名等	国道398号		担当課長名	大塚 行雄	
箇所名	湯沢市稲庭		担当者名	佐藤 秀治	
総合計画との関連	政策コード	10	政 策 名	交通基盤の整備	
	施策コード	02	施 策 名	地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備	
	指標コード	01	施策目標(指標)名	県管理国道の整備推進	

1. 事業の概要

事業期間	H23 ~ H29 (7年)		総事業費	23.3億円	国庫補助率	7/10	
事業規模	延長L=4,530m、幅員W=6.5(9.5)m (1.50+3.25+3.25+1.50) 歩道なし						
事業の立案に至る背景	<p>国道398号は、宮城県石巻市から栗駒国立公園、小安温泉郷を通り、由利本荘市に至る主要幹線道路であり、湯沢市中心部及び横手市からそれぞれの観光地へのアクセス道路でもある。</p> <p>当該地区は「稲庭うどん」の生産地でもあり、多くの観光客が訪れているが、計画区間は幅員が5.5m以下の区間が全体の72%におよぶことから、車両の走行性に支障をきたしている。</p> <p>また、歩道も整備されていないため歩行者は常に危険と隣り合わせで通行しなければならず、通過交通と地域内生活交通を分離するバイパスとして早急に整備することで、それぞれの安全な交通空間を確保するため新規事業として要望するものである。</p>						
事業目的	<p>車両のすれ違い困難箇所の解消</p> <p>安全な歩行空間の確保</p> <p>広域観光支援のためのアクセス道路の整備</p> <p>第2次緊急輸送道路としての機能確保</p>						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度以降
	事業費		2,326,000	186,000	135,000	260,000	1,745,000
	経費内訳	工事費	1,630,000		20,000	100,000	1,510,000
		用補費	405,000	30,000	100,000	125,000	150,000
		その他	291,000	156,000	15,000	35,000	85,000
	財源内訳	国庫補助	1,628,200	130,200	94,500	182,000	1,221,500
		県 債	662,900	53,000	38,400	74,100	497,400
その他							
一般財源		34,900	2,800	2,100	3,900	26,100	
事業内容			詳細設計、用地測量、建物調査、用地補償、	地質調査、橋梁予備設計、用地補償、道路土工	道路土工、橋梁詳細設計	道路土工、舗装工、橋梁下部工、橋梁上部工	
調査経緯	<p>H21 道路概略設計</p> <p>H22 道路予備設計</p>						
上位計画での位置付け	ふるさと秋田元気創造プランの「社会資本整備」を推進する事業 湯沢市総合振興計画を支援する事業						
関連プロジェクト等	湯沢市総合振興計画						
事業を取り巻く情勢の変化	幅員狭小で車両のすれ違いが困難で、歩道もないことから安全上問題がある。 広域観光支援のため観光拠点間のアクセス道路の安全な走行性確保が必要である。 緊急輸送道路として走行性に問題がある。						
事業効率把握の手法	指標名	路線整備率					
	指標式	整備率(整備済延長/路線実延長)					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	92 %		データ等の出典	道路課調べ		
	達成値 b	92 %					
達成率 b/a	100 %		把握の時期	平成22年 7月			

2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	当路線は、稲庭地域の生活道路であるとともに、観光拠点を結ぶアクセス道路であるため交通量が多く、車両のすれ違いが困難なほか、十分な歩行空間も確保されていない。冬期は堆雪幅が確保されていないため交通空間がさらに減少する。	31 点
緊 急 性	通学路指定されているが、死傷事故率が多いところで111件/億台キロと県平均の41件/億台キロを上回っており、安全な歩行空間の確保が急がれる。	10 点
有 効 性	観光拠点を結ぶアクセス道路が整備されることで、地域活性化を図れる。通過交通が生活道路と分離されることにより安全な道路を確保できる。第2次緊急輸送道路としての機能を確保できる。	14 点
効 率 性	事業の費用便益は1.3であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 22億円 ・総便益の現在価値 29億円	20 点
熟 度	地元説明会では各地域でバイパス整備を期待されており、熟度は高い。	10 点
判 定	ランク ()	85 点
	ランク であり、事業実施箇所としての優先度は高く、事業を実施すべきである。	
総 合 評 価	選定 改善して選定 保留	85 点
	評価結果から事業箇所としての優先度は高く、事業は実施すべきである。	

3. 総合政策課長の2次評価

総合評価	選定 改善して選定 保留
	当該区間は、通学路指定路線であるが、大部分が幅員狭小な上、歩道が未設置の状況にある。沿線には家屋が密集し、現道の拡幅は困難であり、通過交通と地域内交通を分離するバイパスとして整備する本事業の必要性は高く、事業の実施は妥当と判断される。

4. 財政課長意見

意見内容	選定 改善して選定 保留
	当該区間は、観光地へのアクセス道路であるが、幅員が狭い区間が長く、歩道の整備も十分でないため、安全な走行性の確保に支障をきたしている。また、既存の市道の活用を念頭においたルート選定をしており、コスト縮減の観点からも妥当である。

5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総合評価	選定 改善して選定 保留
	事業の実施は妥当である。

6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

事業箇所を国に新規要望する。

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 新規箇所評価

事業コード(H22-建-新-06)

適用基準名 道路改築事業(地域間交流・連携促進)

箇所名 (湯沢市稲庭)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要		
必要性	道路の現状の問題						
	道路構造上の欠陥箇所数	3箇所以上	17	17	2次改築事業については該当しない		
	・車道幅員 < 5.5m	2箇所	12				
	・最小半径 < 100m	1箇所	7				
	・最急勾配 > 5%						
	・冬期堆雪巾なし	0箇所	0				
	道路環境上の欠陥該当項目	5件該当	18			14	2次改築は配点36点 2次改築は配点28点 2次改築は配点20点 2次改築は配点12点 2次改築は配点6点
	・現道の混雑度 1.0	4件該当	14				
	・現道の旅行速度 30km/h	3件該当	10				
	・現道の事故率 50件	2件該当	6				
・通学路指定で歩道なし	1件該当	3					
・重大交通事故が発生	該当項目なし	0					
計			35	31			
緊急性	道路をとりまく環境等						
	関連事業の有無	県の主要プロジェクト等に該当	5	5			
	・県の主要プロジェクト	地域振興プロジェクトに該当	3				
	・地域振興プロジェクト	該当なし	0				
	・ほ場整備等の他事業						
	市町村合併支援道路	位置づけあり	5	5			
	位置づけなし	0					
特有の課題の有無	あり	10	0				
老朽橋、災害危険箇所、冬期通行不能区間等	なし	0					
計			20	10			
有効性	道路の位置づけ						
	緊急輸送路	第1次輸送路	8	7			
		第2次輸送路	7				
		第3次輸送路	6				
		指定なし	0	7			
	救急医療施設へのアクセス	直接アクセスする	7				
	間接的に補完する	5					
計			15	14			
効率性	事業の投資効果等						
	費用便益比(B/C)	1.0以上	10	10			
		1.0未満	0				
	計画交通量	5,000台/日以上	10	10			
		1,000台/日以上~5,000台/日未満	5				
	1,000台/日未満	0					
計			20	20			
熟度	地元の状況						
	地元ニーズ	文書要望あり	4	4			
		口頭要望あり	2				
		要望なし	0				
	地元の協力体制	地元の内諾	3	3			
		用地反対	0				
	地元への方針説明	あり	3	3			
	なし	0					
計			10	10			
合計			100	85			

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		